

2010（平成22）年度予算について

学校法人 桃山学院
理事長 坪井 清

2010（平成22）年度学校法人桃山学院の予算は、予算会議の議を経て、2010年3月23日（火）開催の理事会、評議員会で承認され成立いたしましたので、ここに予算の概要と予算書類の公開を以下のとおり行ないます。

主な事業予算の概要

[キャンパス整備]

(1) 昭和町キャンパス整備

中学校・高等学校のある昭和町キャンパスの既存施設（「F館」）について、屋上防水改修、教室空調設備の更新等にもなう費用を計上し、キャンパスの整備事業を推進します。

(2) 和泉キャンパス既存施設改修

2009年に学院創立125周年・大学開学50周年の記念館として建設した「聖ヨハネ館」の供用にとまない、既存施設（「聖マーガレット館」）を学生のキャンパス滞留や各種団体の活動の場としての施設「学生プラザ」に転用するため、必要な経費を計上します。

[教学条件の整備・充実]

(1) 国際交流の推進

「世界の市民」の育成をめざし、国際交流のさらなる推進・充実のため、交換留学における受入・派遣留学生への支援強化、日本留学フェアへの参加など国際交流充実のための諸取り組みを行います。

(2) 情報インフラ整備

学内情報ネットワークシステム（SAINT）により、2009年度に新たに構築した聖ヨハネ館関係をも含めた学内情報流通の一層の効率化をはかります。そのなかで、本年度はWeb成績入力発表システムを導入して学生サービスの向上につとめます。また、事務システムについても2009年度より継続して更新（オープン化）し事務の効率化につとめます。

[学生生活支援の充実]

(1) 就職支援

2007年度に設置したキャリアセンターにおいて、1年次生よりの適正検査実

施や、各種セミナーおよび就職合宿の実施などを通して、職業意欲の高揚をはかるなど就職支援体制の強化充実をめざします。それに加え保護者対象説明会を実施することにより、キャリア教育の重要性や採用状況・就職活動についての理解や認識を深めてもらうことにつとめます。

(2) ボランティア活動支援

2009年度より学生支援課（旧学生課）内に発足させた「ボランティア活動支援室」の運営経費を計上します。ここでは、他の正課外活動支援との基本スタンスと歩調をあわせるとともに、ボランティア活動に対する一層の支援強化を行ないます。

(3) キャンパスコミュニティ形成支援

学生生活において、仲間作りを行なったりキャンパス滞留時間を増やすことにより、帰属意識の醸成を促進するとともに学生の孤立化を防ぎ、またキャリア形成の一助とするため、昨年度に引き続き「ひとり暮らしの料理教室」、「プロジェクトアドベンチャー」等種々のプログラムを実施します。本年度は新規プログラムとして、「米作り体験」を実施します。

[スポーツ振興]

(1) 特別スポーツ強化

社会から注目度の高い複数の「チームスポーツ(サッカー・アメリカンフットボール)」種目を、常に全国大会レベルで競技し得ることを目標に特別に強化し、その活躍を通して学生諸君の本学への帰属意識の向上をはかります。また広く社会に本学の活気ある姿をアピールします。

[命の教育]

(1) A E D普及による「命の教育授業」への取り組み

昭和町キャンパスの中学校および高等学校において、A E D装置を取り入れた「命の教育・心肺蘇生法の授業」を積極的に推進します。

[地域づくりの推進]

(1) 地域貢献・連携の強化

本学が南大阪を中心とした地域づくりに関して、「南大阪再生プロジェクト」や「地域学校教育支援」におけるボランティアやスポーツ等への学生を中心とする様々な活動を通して、地域貢献・連携の強化につとめます。

[環境整備の促進]

(1) 環境整備関連機器の充実

和泉キャンパスにおいて、省資源・省エネルギー、キャンパス内の環境保全のため、屋内用ゴミ箱を設置するなどして環境整備につとめます。

[広報・入試対策の強化]

(1) 戦略的広報

恒常的な広報費とは別に、入試戦略強化のための広報費、就職支援対策の強化のための企業向広報戦略費、大学の認知度およびイメージアップのための広報費などを計上します。また、ホームページを更新して、内容等をより充実したものとし、内外利用者への一層の情報提供につとめます

[財政基盤・戦略基盤の強化]

(1) 特定資産の整備・拡充

財政基盤の強化のため、施設設備の維持再生資金である減価償却引当資産について、「期末減価償却累計額の少なくとも50%以上は確保する」という理事会決定に基づき当該引当資産への繰入れを行いません。また、将来計画への対処のための将来構想資金引当資産についても繰入れを行ない、過年度費消分に対して資金補給することにより、戦略基盤の強化につとめます。

(2) 中期経営計画の策定

財政基盤の安定・強化にむけて、中長期的な視点にたつ設備投資計画などを盛り込んだ中期経営計画を策定します。

資金収支予算について

資金収支予算書は、予算編成を通して当該年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。2009年度補正後予算額との比較で示せば下表のとおりです。

資金収支予算比較総括表

(単位：百万円)

項 目	2010年度予算額	2009年度補正後予算額	増 減
前年度繰越支払資金	5,930	5,607	323
資 金 収 入	10,784	11,124	340
資 金 支 出	11,218	10,801	417
次年度繰越支払資金	5,496	5,930	435

<注> 端数処理(百万円未満を四捨五入)の関係で合計額が合致しないことがあります。

以上のように資金収入につきましては、合計で3億4,000万円減の107億8,400万を計上しました。この減収については、学生生徒等納付金収入減(入学金の改定による減、在学学生数減による授業料の減など)、周年記念事業募金活動の終了による寄付金減、雑収入減(退職者数減による財団交付金減)などが主な要因です。

一方資金支出では、合計で4億1,700万円増の112億1,800万円を計上しました。この主な要因としては、減価償却引当資産や将来構想資金引当資産への繰入れといった財政基盤や戦略基盤の強化のための資金増があげられます。

その結果、次年度繰越支払資金は4億3,500万円減の54億9,600万円を見込んでいます。

消費収支予算について

消費収支予算書は、予算編成を通して当該年度の消費収入と消費支出の内容を明らかにし、消費収支の均衡状態（経営状態）を表す書類です。2009年度補正後予算額との比較を表で表せば以下ようになります。

消費収支予算比較総括表 (単位：百万円)

項 目	2010年度予算額	2009年度補正後予算額	増 減
帰 属 収 入	10,497	11,076	578
基 本 金 組 入 額	248	206	42
消 費 収 入 (+)	10,250	10,870	620
消 費 支 出	10,115	10,916	801
当年度消費収支差額 (-)	135	46	181
前年度繰越消費収支差額	4,176	4,222	46
翌年度繰越消費収支差額 (+)	4,311	4,176	135

<注> 端数処理（百万円未満を四捨五入）の関係で合計額が合致しないことがあります。

以上のように帰属収入につきましては、5億7,800万円減の104億9,700万円を計上しました。これにつきましては、資金収支同様、学生生徒等納付金、寄付金、雑収入などの減によるものです。

基本金組入額は4,200万円増の2億4,800万円を計上しました。その主な中身につきましては、主には図書や備品関係といった恒常的な資産取得のためのものです。

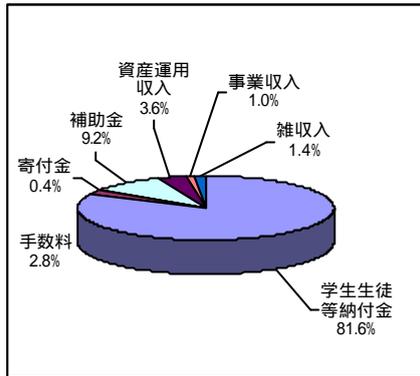
そこで、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入合計では、102億5,000万円の計上となり、6億2,000万円の減少となりました。

消費支出につきましては、大学の改組転換した国際教養学部や中学校開校の年次進行（いずれも2010年度で3年目）にともなう経費増はあるものの、設備関係を中心とした固定資産の耐用年数満了による減価償却額の減や周年記念事業の終了による関連費用の減に加え、前年度に引き続き教学条件に支障をきたさないことを前提にした広告費・委託費等を中心とした諸経費のさらなる圧縮・削減により、8億100万円の大幅な減少となり、合計で101億1,500万円の計上となりました。

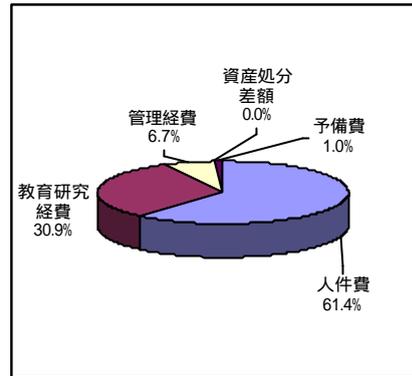
その結果、当年度消費収入超過額は1億8,100万円増の1億3,500万円となり、翌年度繰越消費収入超過額は43億1,100万円となる見込みです。

なお、消費収支予算における一般に「経常収支」といわれる帰属収入と消費支出の構成をグラフで表せば以下ようになります。

帰属収入の部合計 104 億 9,700 万円



消費支出の部合計 101 億 1,500 万円



2010(平成 22)年度 資金収支予算書

2010(平成 22)年度 消費収支予算書